

# ICT活用モデル工事(試行)のアンケート調査(まとめ)【受注者回答】 令和4年(2022年)4月建設管理課

**【対象】** 令和3年度内に完成した工事のうち、全面的なICT施工技術を活用するモデル工事  
(ICT活用モデル工事:394件、うち取組表明(実施)工事:68件)

**【回答】** 64工事(19件がICT施工実施工事、45件が未実施)

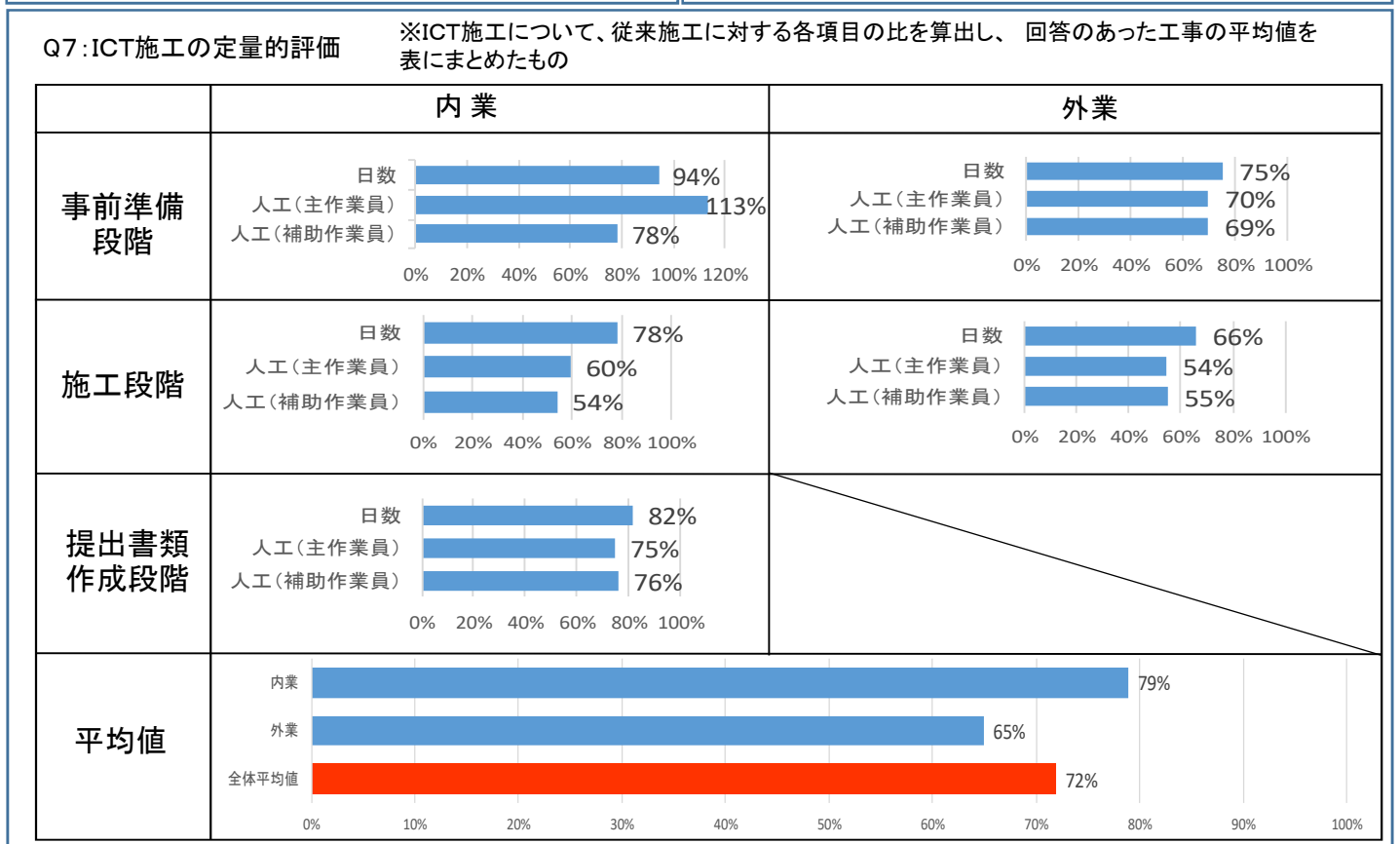
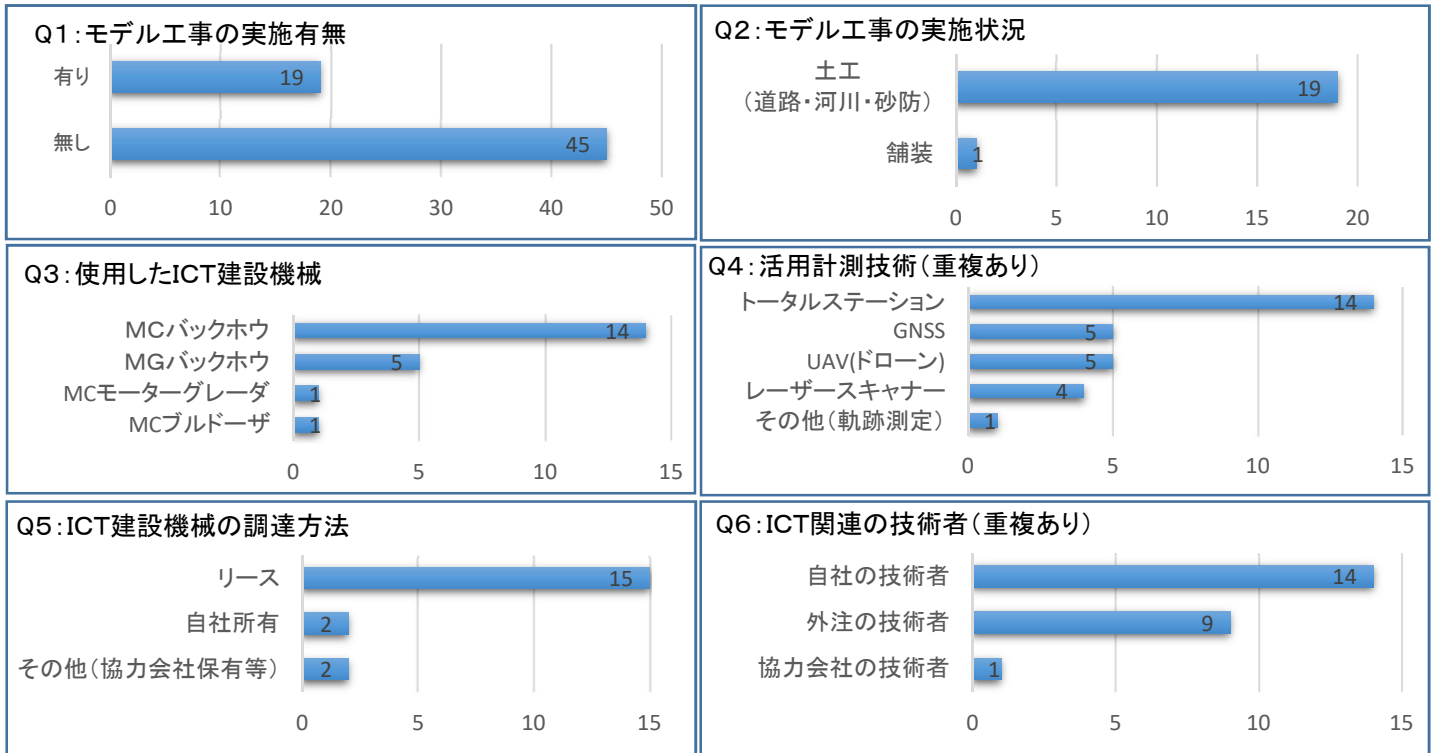
## 【結果】

### ・ICT施工の定量的評価

内業において事前準備段階(施工計画書作成、機器の調達、3次元データ作成等)では、従来施工と比べて、主作業員の人工については増えているが、全体の日数は縮減している。施工段階、提出書類作成段階においては作業員や日数が全体的に縮減している。

外業では事前準備段階、施工段階ともに従来施工と比べて縮減されている。

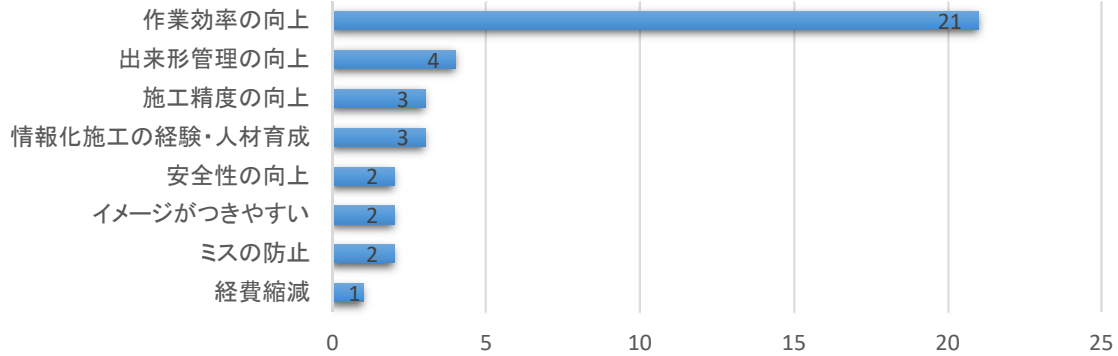
全般において、内業は79%、外業は65%、内業・外業を合わせた全体の比率では72%と、施工の効率化と労力が軽減され、従来施工と比べて、効率化が図られている。



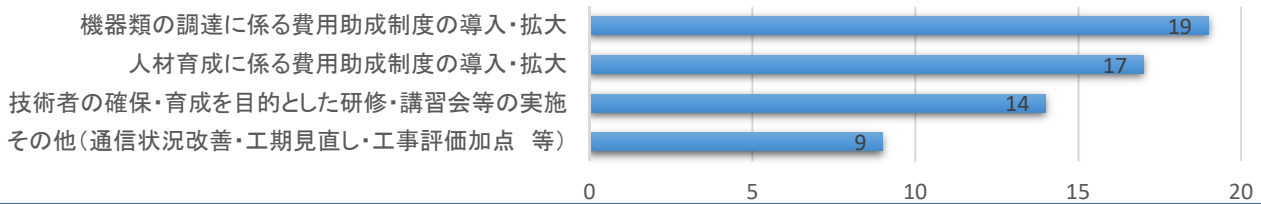
**【結果】**

- ・ICT活用工事においては、作業効率の向上にかかるメリットが最も大きい。また、出来形管理や施工精度の向上や情報化施工の経験・人材育成にメリットがあると感じている回答も見られた。
- ・ICTの普及に必要なこととして、機器調達・人材育成等の費用助成制度の導入・拡大が最も多い。次点が技術者の育成を目的とした研修等の実施である
- ・ICT活用モデル工事を実施しなかった理由については重機等のレンタル費用が高く、技術者が確保できないとの理由が多かった。
- ・R3年度にICT活用モデル工事未実施回答者の95%が、今後ICTの積極的な取組みを考えている・検討するとの回答。

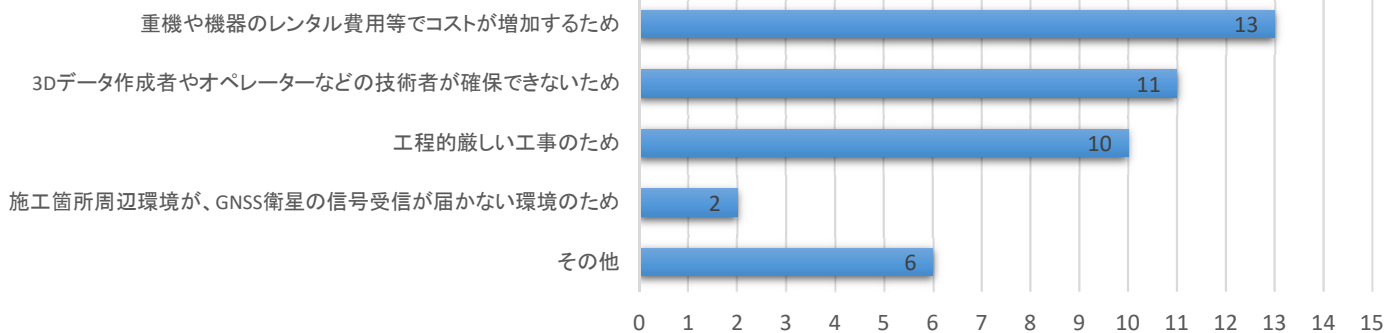
Q8:ICT活用工事のメリット(重複回答あり)



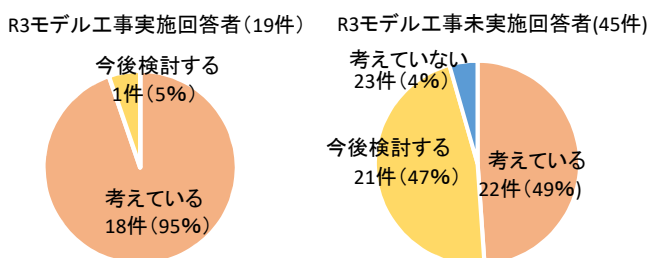
Q9:ICT普及に必要なこと(重複回答あり)



Q10:未実施の理由(重複回答あり)



Q11:ICT活用工事の今後の積極的な取組について



Q12:受注者意見

- ・3次元測量・設計データ作成等は慣れが必要で、機材が自社持ちの場合、費用的にも時間的にも負担は大きい。
- ・費用が高額過ぎるのが欠点。補助が必要である。
- ・ICT施工機械は誰でも乗れるので、進めていきたい。
- ・電波の受信の厳しい箇所でも積極的に実施して技術力を向上していきたい。

**【まとめ】**

ICT施工については取組み意欲はあるものの、機器調達・人材育成にかかるコスト面で課題がある結果となった。